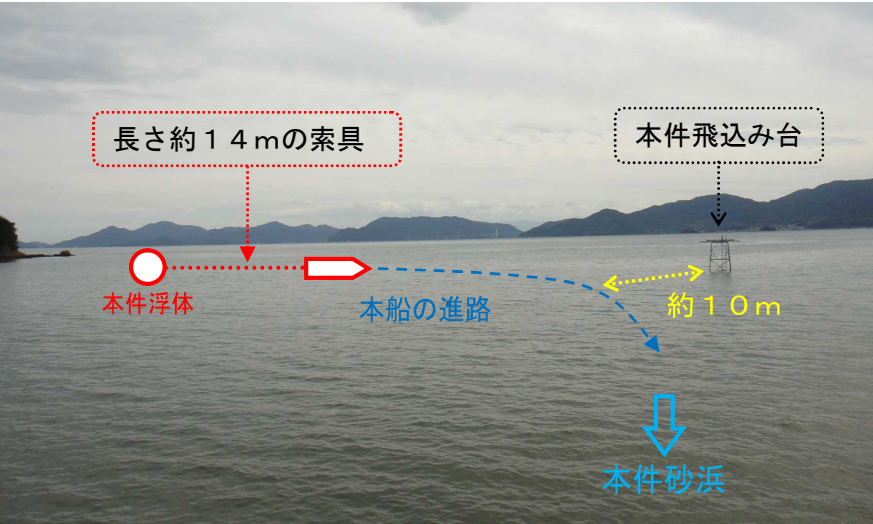


船舶事故調査報告書

令和元年8月21日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 佐藤 雄二（部会長）
委員 田村 兼吉
委員 岡本 満喜子

事故種類	被引浮体搭乗者負傷
発生日時	平成30年7月1日 10時32分ごろ
発生場所	広島県呉市小用港東北東方沖 高飛三等三角点から真方位269° 1,900m付近 (概位 北緯34° 14.5′ 東経132° 43.9′)
事故の概要	水上オートバイリヨウは、浮体をえい航して右旋回中、浮体が飛込み台に衝突し、浮体の搭乗者が負傷した。
事故調査の経過	平成30年8月9日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	水上オートバイ リヨウ、0.2トン 240-62484愛知、個人所有 2.89m (Lr) × 1.10m × 0.46m、FRP ガソリン機関、154.5kW、平成22年4月
乗組員等に関する情報	船長 男性 44歳 二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士 免許登録日 平成28年3月31日 免許証交付日 平成28年3月31日 (令和3年3月30日まで有効) 搭乗者 男性 32歳
死傷者等	重傷 1人(搭乗者)
損傷	なし
気象・海象	気象：天気 晴れ、風 なし、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 上げ潮の末期、潮高 約280cm(小用)
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、搭乗者1人を乗せた浮体（直径約1.2mのドーナツ型浮体、以下「本件浮体」という。）を長さ約14mの索具を用いてえい航し、遊走の目的で、平成30年7月1日10時28分ごろ呉市安浦町の砂浜（以下「本件砂浜」という。）の西方沖に向けて出発した。 本船は、本件砂浜東方沖で数分間遊走した後、本件浮体をえい航しながら本件砂浜の出発地に向けて約30km/hの速力（対地速力、以下同じ。）で西進した。

	<p>本船は、船長が、約20km/hの速力に減じ、本件砂浜南方沖に設置された飛込み台（金属管を組んだ全高約4mの檣形飛込み台、以下「本件飛込み台」という。）を左舷方約10mで並んで右旋回を始めたところ、本件浮体が遠心力で外側に振り出され、10時32分ごろ本件飛込み台に衝突した。</p> <p>船長は、搭乗者が、本件浮体から投げ出されて落水したところを見て、泳いで搭乗者の救助に向かったところ、搭乗者が本件飛込み台と接触して腰が痛いと訴えていたので、119番通報した。</p> <p>搭乗者は、病院に搬送され、左第3腰椎横突起骨折、尾骨骨折、第4第5腰椎棘突起骨折、両大殿筋損傷と診断された。</p> <p>船長及び搭乗者は、救命胴衣を着用していた。</p> <p>（付図1 事故発生経過概略図 参照）</p>
<p>その他の事項</p>	<p>本件飛込み台は、本事故当時、海面上からの高さが約1mであった。</p> <p>船長は、本事故当時、しばしば後方を見て、搭乗者が、本件浮体の中央の凹部（直径約60cm、深さ約40cm）に腰を降ろして両足を外に出し、外周に設けられた2個の取っ手を握り、安定した姿勢で乗り込んでいて、本件浮体が安定していることを確認していた。</p> <p>船長は、これまで幾度も本件浮体をえい航して、本件飛込み台付近で旋回した経験があったので、本事故当時、約20km/hの速力であれば、右旋回しても、本件浮体が遠心力で左舷方に約10m離れた本件飛込み台まで振り出されることはないと思った。（写真1参照）</p>  <p>写真1 本件飛込み台周囲の状況</p>
<p>分析</p> <p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象等の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、本件砂浜南方沖で、本件浮体をえい航して西進中、船長が、本件浮体が遠心力で左舷方の本件飛込み台まで振り出されること</p>

	<p>はないと思い、約20km/hの速力で、本件飛込み台付近で右旋回したことから、本件浮体が遠心力で外側に振り出されて本件飛込み台に衝突し、搭乗者が負傷したものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、本件砂浜南方沖で、本件浮体をえい航して西進中、船長が、本件浮体が遠心力で左舷方の本件飛込み台まで振り出されることはないと思い、約20km/hの速力で、本件飛込み台付近で右旋回したため、本件浮体が遠心力で外側に振り出されて本件飛込み台に衝突したことにより発生したものと考えられる。</p>
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水上オートバイで浮体をえい航して旋回する際は、浮体が遠心力で振り出されることを十分に考慮し、周囲に障害物が存在しない広い海域で行うこと。

付図1 事故発生経過概略図



※国土地理院Webサイトの地理院地図使用

